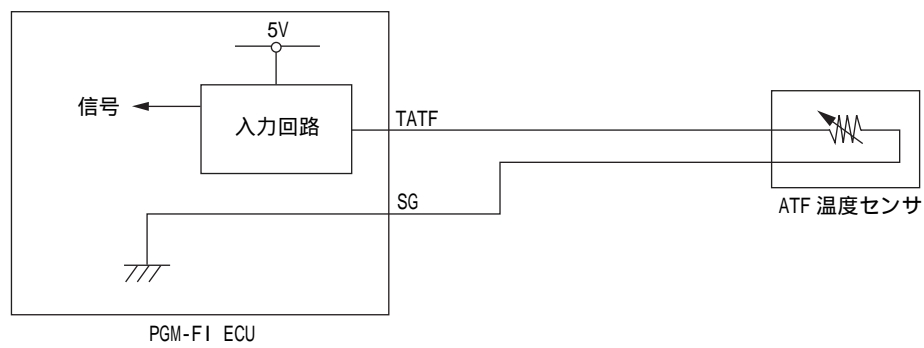


DTC 解説

DTC P0713: ATF 温度センサ断線 (AT システム)

検知原理解説



01_P0711C_SMGA00

ATF 温度センサは、ATF の温度により抵抗が変化するサーミスタ式が用いられている。
PGM-FI ECU はプルアップ レジスタを通して、5V の電圧を温度センサに供給する。
ATF の温度が低い際は温度センサ抵抗が増加し、PGM-FI ECU は高い電圧を検出、ATF の温度が高い際は温度センサ抵抗が減少し、PGM-FI ECU は低い電圧を検出する。
検出される電圧が規定値以上 (ATF 温度が規定値以下) の状態で規定時間以上継続した場合、PGM-FI ECU は故障と判定し、DTC をストアする。

検知頻度・検知順序・検知所要時間・検知手法種別・ OBD ステータス

検知頻度	常時
(当該 DTC の) 検知順序	なし
検知所要時間	10 秒間以上
検知手法種別	1D/C(単一検知手法)、PGM-FI 警告灯：消灯、D 表示灯：点滅
OBD ステータス	正常判定、故障判定、未完了

D/C: Drive Cycle(ドライブ サイクル)

検知実行条件

条件項目	下限	上限
バッテリー電圧 [バッテリー電圧]	11V	
当該 DTC の検知禁止要求を行う DTC	P0711、P0712	

[]: HDS パラメータ

故障判定基準

ATF 温度センサ出力電圧 [ATF 温度センサ (V)] が 4.93V 超過の状態で 10 秒間以上継続した場合。

推定故障部位

- ・ PGM-FI ECU と ATF 温度センサ間コード (TATF ライン) の断線 (カブラ外れ、もしくは緩みを含む)
- ・ PGM-FI ECU と ATF 温度センサ間コード (SG ライン) の断線 (カブラ外れ、もしくは緩みを含む)
- ・ ATF 温度センサの故障
- ・ PGM-FI ECU 内部回路の故障

DTC 解説

再現テスト手法

HDS を使用する方法

なし。

実際の代表的テスト走行による方法

1. エンジンを開始する。
2. セレクト レバーを P ポジションにして 10 秒間以上待機する。

DTC のストアとクリア

DTC のストア

車両が故障と判定した場合、PGM-FI 警告灯が点灯することなく、D 表示灯が点滅し、PGM-FI ECU メモリにテンポラリ DTC、DTC およびフリーズ データがストアされる。

DTC のクリア

スキャン ツール (HDS を含む) のクリア コマンドの使用、もしくはバッテリー端子の取外しにより D 表示灯、テンポラリ DTC、DTC およびフリーズ データがクリアされる。